佳作 受賞

作品名：「SDGｓ達成と私にできること」

富山国際大学付属高等学校
3年　山森　こころ　さん

▽受賞のコメント

自分の興味のあること（ミュージカル）から、世界を見てみました。「こころの劇場」は子供たち向けに行っているところに心ひかれました。今は舞台を見に行くことはできないですが、「芸術」は人間にとってとても大切なもので、それは国を超え、言語を超えます。ミュージカルなどの芸術を通じて外へ発信していきたいです。

▽作品本文

　二〇一八年七月十三日、劇団四季創設者の浅利慶太さんが亡くなった。浅利さんは私の人生を大きく変えてくれた日本の演劇界の第一人者であり、私にミュージカル女優になるという夢や希望を与えてくれた人でもある。なぜ私が浅利さんの話をするかというと、浅利さんが生前から取り組んでいる「こころの劇場」の理想こそがSDGｓのゴール達成につながると考えたからだ。「こころの劇場」とは子どもたちに演劇の感劇を届けるプロジェクトで、子どもたちの心に生命の大切さ、人を思いやる心、信じあう喜びなど、生きていく上で大切なことを舞台を通じて語り掛けたいという気持ちからスタートした無料公演である。さらにこのプロジェクトの注目すべき点は、演劇に触れる機会が少ない地方を中心に行われていることだ。地方在住の私もその影響を受けた一人であり、その時受けた衝撃と感動のエネルギーは今でも私の原動力となっている。このように質の高い芸術に触れる機会を無料で提供しているというのが「こころの劇場」の理念にはっきりと表われていると私は思う。そこでSDGｓゴール達成に向けて私にできること。それは『ミュージカルを通じてまず身近な人々へ世界の現状を伝え、今の私たちにできること、しなければならないことを考えるきっかけを作ること』だ。命の大切さ、生きる喜びを伝えるミュージカルが国内の様々な地域で上演され、ゆくゆくは世界中の多くの人々にその素晴らしさを伝えられればこの上ない喜びだ。芸術に触れることで質の高い教育につながり、物語を通して達成しなければならないゴールについて端的に伝えられると思うからだ。私も当初そうだったがSDGｓを難しいと捉える人も少なくない。ミュージカルは音楽やダンスがないと成立しないエンターテインメントだが、音楽やダンスは世界共通語であり翻訳の必要がない。ミュージカルがもつ魅力を最大限に活かすことができ、老若男女、国籍を問わず難しいと感じる内容も音楽やダンスに乗せることでより伝わりやすいのではないかと思う。私の学校では世界情勢について考える授業があり、毎回授業の後には自分の意見を英語でまとめている。例えば子供奴隷や経済格差、子供の兵隊や人身売買など、非常に難しい内容だがこの授業のおかげで世界情勢について深く考えるようになった。さらに私は世界中の人々と繋がり様々な価値観を学び自分なりの意見を発信できればと考え、ユネスコ部と英語部に入部した。文化祭ではSDGｓをテーマに各クラスが展示することになった。その際私はクラスリーダーとして活動を行ないSDGｓについて詳しく調べていったのだが、いかに自分がSDGｓについて知らなかったのかということを思い知らされた。十七それぞれのゴールのこと。ゴールを達成するためにどのような問題があるのかということ。十七のゴール・問題というのは深いところでつながっていくということ。そして「知る」ということが大切であるということ。さらにより多くの人々に知ってほしいということ。これまで「人々に感動を伝えたい」とただ漠然とした夢だったものが、明確な目的に変わっていった。今伝えなければならないことをミュージカルを通して発信し、「こころの劇場」の理念を繋いでいく。そのためには私は今、SDGｓについての知識や理解を深めて、自己表現を磨いている。SDGｓは難しく考える必要などない。自分にできることから始めるべきだと今は思う。私は私ができることを。例えばいま目の前にいる誰かを笑顔にすること。正しいと思ったら行動に移すこと。私にできることはまだ小さく、少なく、雨つぶみたいなものかもしれない。でもそのたったひとしずくが永遠に続く波紋となり世界中に広がっていくと私は信じている。SDGｓのゴール達成を目指し世界中の人が平等にそして幸せになることを願いながら。